

## 平成19年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	高等教育グランドデザイン策定のための基礎的調査分析	研究代表者名	金子 元久
-------	---------------------------	--------	-------

該当箇所( )に 等の印を付け、意見を記入してください。

### 1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア(○) 高い
- イ( ) やや高い
- ウ( ) やや低い
- エ( ) 低い

意見：  
研究の重要性にかんがみ、引き続き計画を強力的に推進してほしい。

### 2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア( ) 予定以上に進展している
- イ(○) 概ね予定どおり進展している
- ウ( ) やや遅れている
- エ( ) 遅れている

意見：  
ほぼ予定通り研究が進んでいると思われるが、今後、国際比較を行うに際して、政策課題との関係を明確にすることが望まれる。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか(ある場合に回答、複数回答可)

- ア( ) 研究経費
- イ( ) 設 備
- ウ( ) 組 織
- エ(○) そ の 他

意見：  
韓国の調査は必要と認められるが、中国の調査は必要性について慎重に検討してほしい。

### 3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか(又はあげつつあるか)

- ア( ) 期待以上の成果をあげている
- イ( ) 概ね期待された成果をあげている
- ウ(○) 期待された成果をあげつつある
- エ( ) 期待された成果はあがっていない

意見：  
データの収集と研究目的との有機的連関がはっきりしていないように思われる。

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア(○) 有機的に連携が保たれている
- イ( ) あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ( ) その他

意見：  
若手中心の研究組織に若干の不安を感じるが、そのメリットを十分に活かしてほしい。

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア(○) 効率的・効果的に使用されている
- イ( ) あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ( ) その他

意見：

#### 6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

#### 総合的な評価意見：

現在までのところ、データ収集に主力が注がれているが、その分析を急ぐとともに、従来の同種の調査とは異なるどのような新たな知見が得られるかの見通しを、しっかりつけてほしい。それに基づいて、政策の課題としてどのような提言がなされていくのかを、今後とも見守っていきたい。